岩手の生涯学習物語（展開期編）

第十三話　「いわてマナビィ会」の巻

元岩手県教育委員会事務局社会教育課長　高　橋　　寛

前回は岩手の生涯学習の成果記録として発刊した「学びの体験記」のお話でした。今回はその活動の中で誕生したサークル「いわてマナビィ会」のお話です。

「いわてマナビィ会」の誕生

「いま広がる、岩手の生涯学習～人生 80 年代、生きがいの創造」をテーマに、平成元年に始まった生涯学習推進事業の一つ「学びの体験記」の事業から一つのサークルが誕生しました。「いわてマナビィ会」です。

その誕生当時の様子を第四代会長の菅原千代子さんは次のように語っています。

「岩手県教育委員会は平成元年を生涯学習元年として広く県内から「学びの体験記」を募集いたしました。応募者多数の中から 11 名の方が入賞され、その学びの体験内容は他の追従を許さぬものであり、深い感動を覚えるものでした。

県民会館での表彰式後、入賞者一同昼食を共にしながら熱い思いを語り合い、今後入賞者同士の集まりを持ち、輪を広げていこうと言うことになりました。翌2年1月、この会を『いわてマナビィ会』と名づけて自主的研修を行う会として、ここに発足いたしました。

毎年入賞された方々を新会員として迎え、現在 50 名を数えております。会員の方々はそれぞれの地域に於いて、今尚生涯学習を推進しておられ、その活躍、姿勢に敬意を表するものでございます。

当会といたしましては、例年会員の親睦交流を図ることを目的として県内各地に於いて一泊研修を催し成果を挙げてまいりました」と。

「いわてマナビィ会」への期待

私達県教育会委員会はこの「いわてマナビィ会」の発足を歓迎するとともに、ある期待を持っておりました。会員は県内有数の人材であり、その知識経験は豊富です。この方々が岩手の生涯学習推進の一役を担ってもらえないものかということです。

そんなことから、第一回学びの体験記入賞者皆様方のお祝い昼食会の席上、「皆様でサークルをつくり、活動するのも楽しいことではないだろうか」とそっと提案したのです。

もちろん、サークルの運営には一切の口出しはせず、県教委関係者が会員になることも、名誉職になることもなく完全自主運営を期待してのことでした。いわば、岩手のモデルサークルを期待したのです。

ただ、会員が各教育事務所や市町村で行われる「生涯学習のつどい」での発表など、生涯学習推進への協力を期待していたことも事実です。

「学びの体験記」再録

「いわてマナビィ会」の活動は期待以上のものでした。やりたいことを自分達の力で楽しみながら行う、行政や他団体に頼ることのない完全自主運営のサークルに発展していきました。その時々の様子は、私の友人や妻が会員であることから知らされました。

特筆すべきは、マナビィ会十周年を迎えた時のことです。自分たちの活動の記録を確かなものにしたいとの思いから、会の歩みを記録するとともに、なんと学びの体験記 10 ヵ年分すべてを収録し、「学びの体験記（入賞作品）生きがいの発見と創造」と題して発刊したのです。

いわてマナビィ会
10 周年記念誌

この 1 冊で「学びの体験記」のすべてが判ります。これは岩手の生涯学習の歴史を飾る快挙と言えましょう。行政もやれなかったことを成し遂げた、その努力にただただ頭が下がります。

やがて、「いわてマナビィ会」は体験記発刊の事業の中止とともに、平成 24 年解散しましたが、その歩みといわての生涯学習推進に果たした役割は大きく、末永く語り継がれるのではないでしょうか。